

意見陳述書

私は、20代で、平成28年から平成30年の3年にわたり、東京医大を受験しましたが、いずれも一次試験で不合格でした。私は、どうしても医師になりたいので、今も他大学の医学部を目指して受験勉強を続けています。

私が医者になりたいと思ったのは、幼稚園の頃です。転んで額を深く切り、救急車で病院に運ばれました。その際、「傷が残らないように」と優しく治療してくれた医師の姿が脳裏に焼き付き、医者になることを決めました。

受験勉強を始めたのは、高校2年生のころからです。浪人1年目と2年目は週5－6日で予備校に通い、授業後や休みの日も教室が閉まるまで自習室にこもりました。浪人3年目からは予備校に通うお金がなかったことや、自分の長所短所に合わせて学ぶ必要があると感じたことから、たまに個人経営の塾へ出向くほかは、一人で勉強を続けました。人と話す時間はほとんどなく、強い孤独感の中に落ち込んでいく自分を感じていました。

浪人を重ねていると自信がなくなって、自己肯定感もどんどん下がり、人に会いたくない、話したくない、と感じるようになりました。夜、暗い部屋で一人になると、足りないものばかりが見えてきて、本当にいつか医学部に入ることができるのか不安で、考え始めると眠れませんでした。

東京医大の不正については、塾から帰宅した夜遅く、憤る母から聞かされて知りました。受験勉強に集中するため、当時はテレビやインターネットはあまり見ていませんでした。聞いたときは、まず『嘘でしょ?』と思いました。浪人生が不利になる可能性があることは何となく知っていましたが、それでも試験は点数勝負だと思っていました。インターネットで、『女子の方が不利になることは周知の事実でしょ』という書き込みも見ましたが、ならばどうして抗議しないのでしょうか。

他大の医学部に出願をする際に、親の職業を記載する欄があったり、面接の際に親の職業を聞かれたりすることがあったので、成績以外の事情を考慮する医学部があるのではないかと思ったことはあります。しかし、東京医大が性別を理由としたあからさまな得点操作を行っていたことを知り、愕然としました。憲法上、職業選択の自由が保障されているにもかかわらず、職業に直結する医学部入試において、このような得点操作は決して許されるものではありません。

今回、たまたま東京医大の得点操作の事実が公表されることとなりましたが、女性を不利に扱っておきながら、男女とも同額の受験料を支払わせていたことは詐欺と言っても過言ではないと思います。

なぜ人の人生を性別で品定めして、足切りみたいなことをするのでしょうか。今回の問題は、各大学を仕切る上の人たちに、男尊女卑的な古い考えを持っている人が残っていたから起きたのだと感じています。少しでも黙ってしまったら忘れられ、女子が不利なままになってしまうかもしれないと思ったので、提訴に参加しました。

この訴訟が、医学部の問題に限らず日本から差別をなくすための一歩になることを期待しています。

以上